

説教余滴、2017年12月3日、スペインのこと、

スペイン、と聞いて私が思い出すのは何でしょうか。ピカソとパブロ・カザルス、サラサーテとチゴイネルワイゼン、アルハンブラ宮殿の思い出、アランフェス協奏曲、フラメンコ、カスタネット、無敵艦隊、ワイン(シグロ、リオハ等)、カステラ、ラ・マンチャの男、サンチャゴ・デ・コンポ・ステラ、バスク独立運動、フランコ総統、第二次大戦下の中立、ゴヤ、エル・グレコ、ガウディのサクラダ・ファミリア、サッカー王国(レアル・マドリー、バルサその他)、ボルジア(ボルハ)、カルロス 5 世、アラゴンとカステリアの両カソリック国王、取り留めもなく、ほとんど知らないことを露呈するばかりです。

個人的には、青年時代、晴海ふ頭へ行ったら大きな帆船が停泊していたことがあります。大きな赤い十字架がついていて、ひと目でスペインと解りました。簡単にはいることができ、出てきた人と話しました。海軍の練習帆船、彼は機関長、スペイン良いとこ一度はおいで。他の乗組員は外出、彼ひとり、ちとさびしい。彼の流暢なスペイン語と私の日本語で交流。この程度でしたが、スペインに対してとても親近感がわきました。

その後、マドリッドとトレドを訪ねる機会がありましたが、何も知らず、プラド美術館は日曜休館とも知らず、バルと呼ばれる居酒屋の雰囲気を楽しむだけでした。マドリッドからトレドへ行く途中の光景は面白かったし、不思議に感じました。ラ・マンチャ地方のなだらかな丘陵が続きます。その中を電柱が走ります。日本の電柱とは違います。円柱は一本もありません。忘れましたが、たぶんこれは力学的に考えられた形状なんだろう、と感じたことを覚えています。ドン・キホーテは、こうした電柱のような風車に向かって突進したのか、と想像してしまいました。